

第3回 JR古賀駅周辺開発推進協議会 議事要旨

日時	令和6年6月17日(月) 14時00分～16時00分		
場所	古賀市役所 5階(501～503)会議室		
出席者 (敬称略)	委員	福岡大学工学部社会デザイン工学科 教授	柴田 久
		熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センター 教授	星野 裕司
		古賀市商工会 会長	藤井 博文
		ニビシ醤油株式会社 営業部 本部長	玉谷 武志
		古賀市行政区 古賀東区長	高原 伸二
		古賀市行政区 古賀北区長	荒牧 明文
		古賀市行政区 古賀南区長	馬場 實
		福岡県公立古賀竟成館高等学校 教頭	横田 覚
		福岡女学院看護大学 事務部長	武井 秀仁
		花鶴タクシー有限会社 代表取締役	保井 亨
		株式会社古賀タクシー 代表取締役	後藤 正典
		(代理)西日本鉄道株式会社 自動車事業本部 営業部 営業第二担当係長	井上 友和
		九州旅客鉄道株式会社 総合企画本部 経営企画部 交通・開発計画 副課長	高橋 拓大
		(代理)福岡県粕屋警察署 交通規制係 巡査部長	高木 真一
		(代理)独立行政法人 都市再生機構 九州支社 都市再生業務部 まちづくり支援室 まちづくり支援課 課長	三戸 勇二
事務局	建設産業部古賀駅周辺開発推進課	4名	
オブザーバー	株式会社都市環境研究所	井上 翔太	
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・座席表 ・資料1 委員名簿 ・資料2 次第 ・資料3 第2回JR古賀駅周辺開発推進協議会議事要旨 ・資料4 JR古賀駅西口周辺整備基本方針(案)について ・資料5 JR古賀駅周辺官民連携ウォークアブル社会実験について 		

<議事要旨>

1. 開会
2. 主催者挨拶
3. 委員紹介

新しく委嘱された方(荒牧委員、横田委員、高橋委員)と事務局の紹介

4. 説明および意見交換

(1) 第2回JR古賀駅周辺開発推進協議会議事要旨の確認

第2回JR古賀駅周辺開発推進協議会議事要旨の確認について説明(事務局)

(2) JR古賀駅西口周辺整備基本方針について(案)

JR古賀駅西口周辺整備基本方針(案)について説明(事務局)

【意見交換】

1. JR古賀駅西口周辺の現況と課題と2. 整備の基本方針 説明後
(委員)

- ① プレイスメイキングである P21 下図にある緑の左端3点はどの場所を指しているのか。
- ② 西口商店街の道路の幅員が4mと狭く、離合も大変であるが、ウォークアブルな空間にするために車を追い出すなどになると商店街内の事業者の発展が懸念されるが、兼ね合いはどうか考えているか。
- ③ P19 のまちのコンセプト【「めぐる」をつくる】がわかりにくい。このコンセプトにした理由は。

(事務局・オブザーバー)

- ① (P17 参照) 1 点目 (山見阪商店付近) は調査結果から構造的に滞留しやすい場所になっており、プレイスメイキングの重要となる場所のため、民間や公共が連携して強化・工夫をしていきたいと考えている。2 点目 (MIRACO 付近) は事故が多い場所のため安全面にも配慮したい。また道と道が重なり合う交差点というところがポイント。3 点目 (2 点目から線路沿いに進んでぶつかる所) も道と道がぶつかる三叉路なのでポイントとして考えている。
- ② 全ての自動車を止めるのではなく、商店街に目的のない通過交通を抑制したいという考え。歩行環境をよくしていくための設えも整備していきたい。そうすることで西口に用事がある車も歩行者に配慮した運転をしてもらえるようになるのではないかと。幅員はあえて拡幅せずに車が通りにくい道＝歩行者が歩きやすい道として考えている。
- ③ 東口は面的な整備として、歩きやすく、居心地が良い環境作りで進めているのに対し、西口はハード整備だけでは解決できないため、ソフト的な取り組み (地域住民や事業者と一緒に街づくりを進めていくこと) も必要になるので、ハード・ソフト一体的な意味を込めて2つが重なる名前で「めぐるをつくる」とした。

(委員)

コンセプトはいいアイデアだとはおもうが、文言 (まちなかを「巡る」とまちが「循る」) が似すぎていて同じようなことを行うのかなと勘違いする人もでてくると思う。

(柴田会長)

こういうコンセプトはキャッチーだと皆が口に出して言ってくれて、覚えやすさも大事。逆に言うと言葉だけ聞いたら、「なんだろう?」と思わせていること自体が成功。実際の意味を知りたくなり、知ることでみんなが理解していくという流れもある。私はいいキャッチコピーだと思う。

(委員)

- ① 国道495号線から古賀駅までの商店街エリアの地目の変更を大胆に行ってほしい。(開発しやすいように)
- ② サンリブ古賀店の中の空きテナントの状態をどのようになるのか。

(事務局)

- ① 指摘の範囲は既に商業地域として建蔽率・容積率も一番規制の低いエリアとなっている。
- ② サンリブはリニューアルの計画を公表している。

3. 社会実験の実施と4. 空間整備の方針 説明後

(柴田会長)

P54 のサンリブ前の空間イメージはいつごろ出来上がるのか。

(事務局)

今回の議事録と合わせて、サンリブさんと協議のうえ、最終案を資料としてお送りさせていただく予定。

(委員)

古賀駅西口は大きな道路を作らず、既存の道路を活かして活性化を図るイメージがあるが、道路や駐車場の強化は必要ではないか。駅前広場の整備はよいと思う。

(事務局)

西口は既成市街地が出来上がっていて、狭いところでは幅員が4m以下もある。歩行者と自動車のネットワークをしっかりと分けて誘導していきたいと考えている。駐車場については検討していく必要はある。

(柴田会長)

車で入れるところまで来て、商店街の中は歩く。ウォークアブルな街づくりを進めていくには、歩車を分離して共存させていくことが必要。

(星野副会長)

今の流れに関連してP42の社会実験のアンケートで参加者の属性や交通手段(駐車場利用の場合の場所)などについては確認できていたのか。

(事務局)

参加者は古賀市内と近隣住民が中心。交通手段は車と歩行者が半々。駐車場利用場所については確認できていない。

(星野副会長)

そういうデータを積み重ねながら駐車場をどのようにするか検討していく必要があり、またイベントも継続していきながら徐々に変わっていくように誘導するなどに取り組めると良い。

5. 今後に向けて 説明後

(委員)

コンセプトや考え方が地域住民に受け入れられず、理解されなかった場合はコンセプトの変更なども含めて考えているのか。

(柴田会長)

社会実験等を行いながら、地域住民の反応を見て、適宜修正していくというのが基本。住民の皆さんの意見を無視してまちづくりを進めていくわけではなく、社会実験を行い、改善しながら、「めぐるをつくる」というコンセプトの中に落とし込んでいく。簡単に変更するのではなく、どうやればこのコンセプトでうまく前向きに進めていけるのか、特にどのようなマネジメント体制で行うのがよいかをこの協議会の中で話し合っていきたい。また体制の一つに協議会も入っているという認識を委員の皆様にも持ってほしい。

(事務局)

会長がご意見いただいたとおりで、これから住民の方々にご説明していく予定。詳細な整備の内容や具体的なデザインに入っていく中で、どういった機能や集う場、休める空間などがニーズとしてあるかを住民の方々交えてワークショップ等でしっかり意見を拾いながら進めていきたいと考えている。

コンセプトの大きな方針については、行政としては今のところは変えていくというより、このコンセプトに合わせたまちづくりを進めていくので、多様な意見にもしっかりと対応していければと思っている。

(委員)

東口の進捗はどうなっているのか？東口と西口を並行していくためにも進捗を共有してほしい。

(事務局)

東口は、古賀市の考え方としてガイドラインまで示しており、今、関係者と協議を重ねている状況なので進捗が見えていない部分もあると思うが、協議が整い次第今年度から都市計画の変更の手続きに入りたいと考えている。都市計画変更は、概ね1年程度時間を要すると想定しており、変更後に事業化を進めていく。

西口はこの場の皆様の意見を反映した後、整備方針の公表を行う。その後基本設計を進め、来年に向けて考え方を整理して、都市計画の変更に繋げていく予定。

(星野副会長)

基本方針(案)について以下の3点を修正・要望したい。

- ① プレイスメイキングについて、P21 下図に、店舗の点も描いてほしい。社会実験や今後の進め方を検討していく中で、既存の店舗と連携していくことは大事である。全ての店舗のプロットは難しいが、できるだけ図に表現してほしい。
- ② プレイスメイキング(点)・歩行者ネットワーク(線)・エリアマネジメント(面)は決して順番ではなく、並行して進めていかなければならないものなので、P27 下図左側文章に3つを並行して進めていくニュアンスを表記すべき。(担当者が変更していてもわかるように)
- ③ 古賀駅周辺は東口と西口はセットで議論すべきものなので、コンセプトやイメージレベルで構わないので通して確認できるようなまとめ資料を作成すべき。次回の会議時には提示してほしい。

(委員)

基本方針の計画を市民(区民)に知らせる場を設けてほしい。また、自治会レベルの集まり(夏祭りなど)もやっているので連携することができればつながりは増えるのではないかと思う。ぜひ前向きに検討してほしい。

(事務局)

東口と同様に、検討を重ね、成果が出た時点で区民の方には説明させていただく。今回の西口については北区・南区の方を対象とした説明会を開く予定なので、また相談させていただきたい。市民の方には今までも報告会やホームページ等でお知らせしてきたので引き続きそのような方法を取りたい。

(3)JR 古賀駅周辺官民連携ウォークアブル社会実験

JR 古賀駅周辺官民連携ウォークアブル社会実験補助金について説明(事務局)

【全体を通しての意見交換】

(委員)

JR 九州の方にお尋ねで、今後エスカレーターを設置を検討していく中で、駅内に(コンビニ以外の)小さな店舗が入るなどの可能性はあるのか?(吉塚駅にサニーがあるように)

(委員)

現時点では回答しづらいが、今回の議論等に合わせてそのような話が出たり、人の動きや生活の中に役立てるようなプラスの効果があるようであれば当然検討していくことにはなる。今後の議論の中で踏まえて話しができたかと考えている。

5. 次回のスケジュール

(事務局)

今回の整備基本方針を公表後、一旦時間をいただき、その後古賀駅西口の駅前広場を含めた関連の基盤整備の基本設計に入りたいと考えている。その基本設計の内容がある程度固まってきた段階で協議会を進めていきたい。

整備基本方針は、区長からのご意見があった通り、公表に向けて8月頃に住民説明会を開催。その後基本方針を公表する予定。住民の方の参加を一緒に促していただきたい。

6. 閉会

以上